

津ライスニュース 令和8年産第1報

令和8年6月3日

津地域農業改良普及センター 電話：059-223-5103

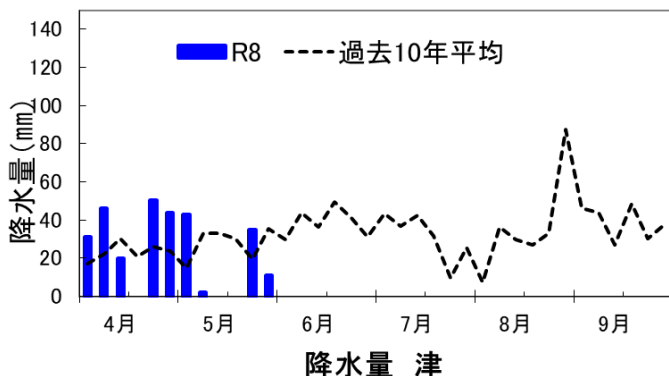
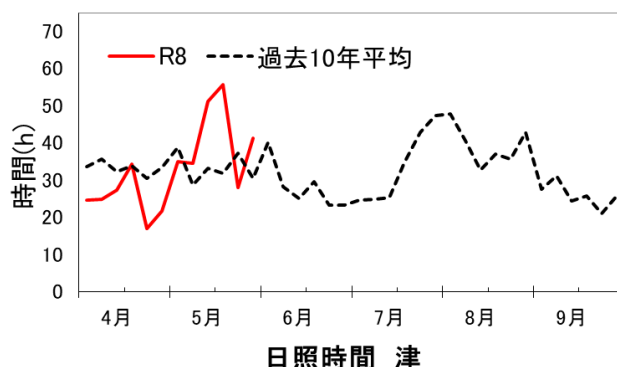
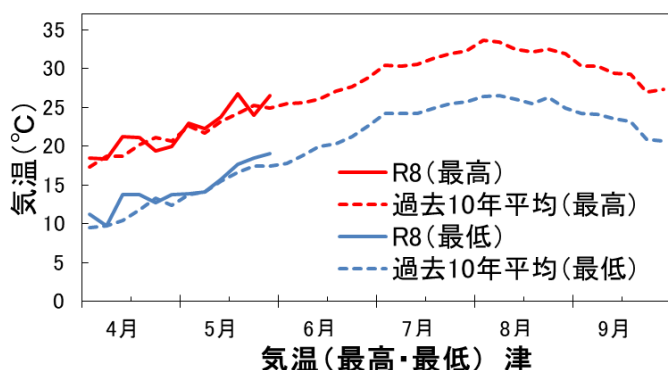
気象経過（5月末まで）

<気温>

4月以降、平年並の気温で推移しています。5月中旬には、30℃を超える日も数日ありました。

<日照時間>

5月初旬までは日照時間はやや短く、5月中旬以降晴天日が多くなっています。



<降水量>

降水量は平年並みで推移しています。4月上旬および4月下旬にまとまった降雨がありました。地域によっては、水源の確保が難しいところもありました。

また、6月初旬には台風が接近しました。

生育の概況

育苗は大きな問題もなく経過しました。移植後、水不足の影響を受け、水が入らず生育が停滞しているほ場も一部みられました。生育初期には、積極的な浅水管理や薬剤散布など、ジャンボタニシ対策を講じている生産者が多くみられました。

現在、分けつが順調に進んでいるほ場では株あたりの茎数が20本ほどとなり、中干しを開始できますので、地域の水の利用事情を考慮しながら実施してください。



病害虫の発生状況と対策

<いもち病>

今後、いもち病発生の適温（25～28℃）となる時期を迎えます。降雨が2日以上続き、最低気温が17℃以上となると、約1週間の潜伏期間において発病します。

- ・補植用の苗は早めにほ場外へ取り除きましょう。
- ・いもち病の早期発見と適期防除に努めましょう。

<カメムシ対策の徹底>

近年、収量が低迷している生産者・地域が散見されます。気候変動により夏季の高温が厳しく、長期間となっています。

収量低下の要因は、様々ありますが、高温やカメムシによる不稔が特に問題となっています。昨年度の暖冬の影響により、カメムシの越冬虫数が多くなっていると予想されています。水稻には直接的な影響はありませんが、三重県病害虫防除所の調査データによると、果樹類に被害を与えるツヤアオカメムシなどの誘殺数は、平年の10倍以上となっており、越冬個体が多いことを示唆しています。

カメムシ類の防除体系(出穂期に1回目防除を行うのがおすすめ)

	1回目	2回目
イネカメムシが多い	出穂期（穂が50%出る）	1回目の7~10日後
イネカメムシが少ない	穂揃期	1回目の7~10日後

※イネカメムシは畦畔を経由せず、水田に直接飛び込むとされていますが、他の斑点米カメムシ類の被害を防止するためにも、出穂2週間頃前までに畦畔を刈り払う等耕種的防除も重要です。

今後の栽培管理

<中干し>

中干し開始は移植後35日後頃で、葉色が濃く茎数が確保できたほ場（コシヒカリ50株植えで20本/株程度、60株植えで16~17本/株となった頃）から行います。

中干しは土壌中に空気を入れることによって、根を健全にする効果や、無効分げつの過剰発生を抑制し有効茎歩合を高める効果が期待できます。適切な中干しの励行によって稲の生育を最適に保ちましょう。

中干しは土壌表面に小さい亀裂が入れば終了です。強すぎる中干しは、根を傷め、稲体を弱める要因となりますので注意しましょう。

※水不足の影響を受け、茎数が少ない場合

収量を取るために、茎数を確保してから中干を開始しましょう。茎数が確保できたら、中干しを軽めに行い、間断灌水で管理しましょう。